

2026年度 法科大学院

第3期末修者

入学試験問題

(小論文方式)

試験時間 80分

注意事項

- (1)試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- (2)この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
- (3)試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- (4)解答は必ず【小論文1】の解答は【小論文1】の解答用紙に、【小論文2】の解答は【小論文2】の解答用紙に、記入してください。
- (5)下書き用紙は回収しません。(解答用紙取り違えの申出には一切応じません)
- (6)参照は不可となっています。
- (7)解答用紙の取替え、追加配布はしません。
- (8)試験問題の内容等について質問することはできません。
- (9)問題冊子の余白等は適宜使用して構いません。
- (10) 試験終了後、問題冊子、下書き用紙は持ち帰ってください。

[小論文1]

以下の文章を読み、続く問いに答えなさい。(200点)

Aは無類の将棋好きである。幼い頃に祖父から将棋を教わって以降、将棋に夢中になり、小学生になる頃には近所の小学生や中学生に負けなくなった。中学生になってからは将棋クラブに所属し、周囲の大人達にも負けなくなった。しかしながら、出場した大会において後にプロ棋士となる者に完敗した。高校生になったAは次第に限界を感じるようになり、プロ棋士になることを諦め、将棋をやめた。その後は、東京にある某私立大学の法学部を卒業し、都内の企業に就職した。

40歳になったAは、職場の同僚に将棋を教えたことをきっかけに、将棋をまた指し始めた。当初はスマートフォンのアプリでプログラムを相手に指していたが、次第に将棋クラブやネット対戦で人を相手に指すようになった。Aは、若い頃と異なり、対局中に対戦相手の人生を考えるようになっていた。指し手、息づかい、雰囲気などから、対戦相手の考え方、経験、人柄が垣間見え、人の生き様を感じた。Aは、年齢に関係なく真剣勝負ができる将棋を愛した。

現在、Aは62歳。あと3年で定年退職であり、その日が訪れることを心待ちにしている。退職後は、好きな時間に好きなだけ将棋を指そうと思っている。

土曜日の夕方、Aはダイニングルームでノートパソコンを開き、ネットサーフィンをしている。あるネット記事が目飛び込み、いら立ちを覚える⁽¹⁾。当該記事のタイトルは『コンピューターが人間を超える日』である。

- A** 何だ、この記事は。AIの利用によってあと数年で将棋の必勝法が完全に解明され、人間の棋士はプログラムに全く歯が立たなくなるだと。本当に腹立たしい。
- 何々、……棋譜を読み込ませればプログラムは加速度的に強くなる。最新のプログラムは自己対局を繰り返し、新たな勝ち方さえも生み出す……。

将棋のルールは、二者で対戦するボードゲームの中でもユニークである。敵陣に進んだ自分の駒を裏返すと、当該駒は強力なものとなる。相手の駒のあるマスに自分の駒を動かすと相手の駒を取ることができ、取った駒を自分の駒として使用できる。これによって指し手が変化に富み、勝敗を決するまでの過程が非常に複雑になる。Aは、少なくとも自分が生きている間に将棋の必勝法が完全に解明されることはないと信じていた。

A 理系の人間の中には後先を考えない者がいる。世の中を滅茶苦茶にする。核兵器、人工ウイルス、クローン、人の遺伝子操作、人を超えるA I。彼らは欲望の赴くままに研究を進め、その影響に無頓着だ。将棋は日本の宝だ。それを踏みにじっている。A Iの利用で将棋の必勝法が完全に解明されたら、プロ棋士の対局でさえ始まってわずか数手でコンピューター上では勝敗が明らかになる。観客は、後はただただ、対局者がミスをしないか見守るだけだ。
そのうち人間は難しい問題を何も考えなくなるぞ。

ダイニングルームに接するキッチンから、Aの妻BがAに話しかける。

B 夕飯、できたわよ。
あなた、さっきから何をブツブツ言っているの。背中が丸まっているわ。背筋を伸ばしなさいな。文句ばかり言う年寄りにみえるわよ。
今日は新しい料理にチャレンジしたの。自信作よ。

A おお、楽しみだ。

B よく味わってよ。時間がかかったんだから。

A いただきます。

B いただきます。……どう。美味しい？

A ……美味しいよ。

B あ～～。そうでもないのね。

A そんなことはないよ。美味しいよ。

B うそ、おっしゃい。あなた、イマイチだと思っているでしょう。さては、クミンの香りが嫌なのね。それと……、塩味も薄いと思っているでしょう。

A ……………。君、すごいな。エスパーかい。一緒に暮らして35年経つけれど、僕はクミンが苦手だなんて言ったことないよね。

B フフフ。

Aは安堵し、「……なんかに、……わかってたまるか」と呟く。しかしながら、Aの心は晴れなかった (2)。

問1 下線部(1)において、何故Aはいら立ちを覚えたのですか。あなたの見解を500字程度で記しなさい。

問2 下線部(2)において、Aが安堵した理由に言及しつつ、Aの心が晴れなかった点について、あなたの見解を500字程度で記しなさい。

[小論文2]

下記の【課題文】を読み、その内容を踏まえた上で、【問1】と【問2】に答えなさい。
解答は、解答用紙 [小論文2] に記入すること。[小論文2] では、字数指定はない。
解答の際には、問いの番号を明記して解答すること。

【課題文】

<省略>

<社説 朝日新聞 2025年10月17日より>

【問1】(40点)

単身高齢者等の住宅確保について、現在どのようなことが問題となっているのか、課題文の内容を踏まえて記載しなさい。

【問2】(60点)

10月に施行された改正住宅セーフティネット法は、単身高齢者等の住宅確保の問題について、どのように対処しようとしているのか、また、その対処方法にはどのような課題があるのか、あなたはそれらについてどのように考えるのか、課題文の内容を踏まえて記載しなさい。